

# 「支所」が活きる「漁師と友だち」提案が新しい!

福井・JF雄島米ヶ脇支所 松田 泰明氏  
まつだ やすあき

日本海側福井県坂井市三国地区で、漁業者の地域機能（支所）を存分に生かした、新しい姿の漁業と海辺の環境教育活動が始まっています。

三国町米ヶ脇地区がその拠点。JF雄島を構成する5支所のうち「米ヶ脇支所」の海女さんと伝馬船で漁をする組合員と、民宿や料亭など漁業に関係の深い地域住民らが構成メンバーです。

その環境教育プログラムの呼び名で、組織の名前が「漁師と友だち」。企画のリーダーであり、JF雄島組合員でサーファーでもある松田泰明さんに、この組織と活動のどこが斬新なのかをうかがいました。

地域合意を取り付けるために松田さんの「応援」を続ける矢口真治JF雄島組合長（米ヶ脇支所長を兼務）にまぎうかがいました。

## 海女と伝馬船漁の米ヶ脇

——JF雄島米ヶ脇支所の漁業は、どんな特徴があるのですか。

矢口 JF雄島は、昭和30年代に、坂井市三国町の前身、雄島村の「米ヶ脇」、「安島」、「崎」、「梶」、「浜地」の5組合が合併してできた組合です。組合は、それぞれ支所として、組合と同じように地区ごとの独自の取り組みを続けながら「連合体」的な組織として、現在まで維持されてきました。

漁業は、昔から海女漁が主体で、ウニ、アワビ、岩ノリ、ワカメを採り、男衆は、伝馬船で釣りや刺し網などで漁をしてきました。JF雄島全体で現在は、組合員（正准）200人を切るまでになっています。米ヶ脇支所は、正准あわせて42名で平均年齢70歳。内訳は、海女さんが21

名で、伝馬船・小型船の男衆が21名です。役員も男女同数出しています。

海女さんは、アマガシラをリーダーに支所として決定権を強く持ち、指導部門だけの小さな支所ですが、地区の結束を高めることに大きな影響を持っています。

## ナ号座礁事故で交流深まる

——松田さんが、そもそも漁業者になつたきっかけは？

松田 10年ほど前、この地区の海に座礁したナホトカ号から流れ出した重油被害を目の当たりにして、サーファーとしてできることはやろうと、岩礁や砂浜の油を回収する作業をしたことが、漁業者との交流が深まるきっかけでした。

矢口 事故の起きた1月の冬のシケの海に、ナギを見つけて漕ぎ出していく松田さんたちの存在に本当に感心し勇気付け



まつだやすあき  
松田泰明氏

1958年福井県坂井郡三国町（現在は坂井市三国町）生まれ。文化・スポーツイベント、地域振興のプロデューサー・プランナー。長野オリンピックスキーモーグル競技音楽演出や、美術展の作品プロデュースを手がけるなど、県内外で幅広い仕事を手がける。また、三国町米ヶ脇地区の海水浴場を拠点にサーフショップ「Nan's Sea: ナンシー」を経営する奥様・大井七世美さんとともにサーフィンを楽しむ、ナホトカ号座礁事故後のボランティア活動をきっかけに、地域漁業者と交流を深め、現在は、七世美さん（海女）とともにJF雄島米ヶ脇支所所属正組合員。夫婦による「ナンシー・ネイチャー・スクール」を運営し、海辺の環境教育プログラムを提供し続けてきた。

られました。事件をきっかけに、支所の事務所兼集会場の漁具倉庫（22ページ写真）を中心に、漁業者とサーファーが車座になって談笑する機会も増え、浜の清掃作業にも積極的に参加してくれるようになりました。

松田 もともと三国出身でした。女房（大井七世美さん）が、サーフィンの適地であった三国の浜をホームゲレンデとして利用し、米ヶ脇地区でサーフィンのプロショップ「ナンシー」を経営していました。私も地域プランナーの仕事をしてながら、サーファーとして、海は、遊びと暮らしの場でした。

20年ほど前にショップの中に、地域の子どもたちやサーファー仲間、海好きの市民たちに環境・自然の保護を訴え、海辺の環境を考える「三国ライフセイビングクラブ」を作り、活動を始めました。

共同で活動し、地域の漁業者への関心も強く、ヨットマンでもあった矢口支所長や、前支所長の米谷淳さんとも海の利用ルールを話し合うなかでお付き合いがありました。民宿を経営する組合員であり釣りの師匠の船に乗せてもらい、1年に80日ぐらい釣りを楽しんできました。

ナホトカ号事件がきっかけになり、交流も深まり「組合に入れや」と誘われるようになり、女房は、海女として、支所の全員の同意で准組合員になることができました。

### 失われたものを復活させたい

——「漁師と友だち」とはユニークな名称ですね。

10年ほど前には、地域振興会や旅行代理店などの依頼を受けて海辺の環境教育プログラムを実施する「ナンシー・ネイチャー・スクール」を開設し、地域の漁師さん、海女さんの協力を得ながら活動を始めました。大人から3歳ぐらいの幼児まで、私は、「海を横から見よう」といっていますが、水深50センチぐらいの安

全な磯海で顔をつけて横に海を見通すと、生物、海の変化などいろいろな発見を体験できます。

また、現代の都会の小さな子どもを持つ親は、子どもを自然で遊ばせるスベを知りません。また、母子家庭もふえ子どもを海で遊ばせる余裕が失われている場合も多くなっています。

私は、自然が豊かな場に暮らす人々、地域の役割の一つとして、そんな子供たちを、一定期間あずかり、豊かな自然と一体となった暮らしを体験させる時間をすごさせる「託児所」的機能も必要と考えてきました。

——プロの漁師や海女さんたちのもつ知恵や伝統の技は、実体験しないとわからない。

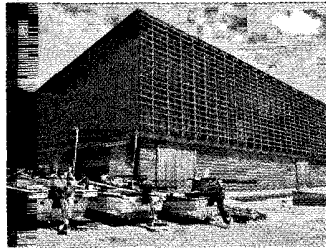
元支所長の米谷淳さんから、今では行われていない木製伝馬船の槽の漕ぎ方をうかがったことがあります。米谷さんから、槽を船につなぎとめるロープの結び方の手ほどきを受けました。

米谷さんから教わったことは、「伝馬船や槽は、博物館に残れば、資金があれば復元できるが、ロープの結び方を知っている人の技が伝わらなければ、昔の漁法は再現できない」ということでした。

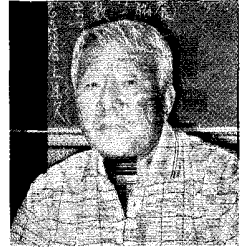
「漁師と友だち」のように接するプログラムは、マチに住む市民にも魅力的で

「漁師と友だち」はこんな活動をしていきます。

- 漁業リーダー養成講座  
漁師も海女も学びます：ベテラン漁師と海女からなる海の専門家として環境教育の指導者づくり。
- 漁師と友だち地元リーダー養成  
漁業者と一緒に環境教育を指導する師範代的インストラクターを養成。
- 漁師と友だち海の子クラブ  
地域の子ども育成自然体験教室。
- 漁師と友だち海の子スクール  
都市と世代間交流の自然体験教室：子どもたち対象の宿泊型海辺の環境教育プログラム。
- 漁師と友だち海の楽園<sup>がく</sup>  
大人も海を楽しみたい娯楽性、趣味の世界を広げる企画。
- 海からの贈り物クッキングスクール  
漁師海女さんと一緒に、魚や海藻を採り、伝統的加工・保存方法を学び、食べる食育プログラム。
- 漁師と友だちビーチコーミングクラブ  
海岸清掃をしながら漂着するモノたちから学びます。
- 漁師と友だち堂  
ジジとババのおいしいものプロジェクト：雄島漁協エリアならではの地元食材を使った商品開発販売。



支所の事務所兼集会場の漁具倉庫



矢口真治 JF 雄島組合長

すが、実は、漁業や地域にとっても益をもたらします。漁業の活性化とは、生産や経営内容をよくすることだけで実現できるものではありません。水揚げ量のよきに数量で測る価値とは一味違う、「漁業」体験や、漁師や海女の技や知恵の「漁師の世界」そのものが価値となって、地域に益をもたらすことによっても可能ではないでしょうか。

米ヶ脇では、大都会近くの海のように「失われた」漁業の世界ではない、生きた本物の漁業の世界が楽しめます。海は「豊か」で「楽しく」「すばらしい」ことを私たちに教えてくれるベテラン漁師や海女と、ともにすごせる「環境」を生かさなない手はないですよ。

NPPOより「LLP」を選んだワケ

——地域JFという組織の合意や協力が不可欠ですね。

そこがポイントです。今年3月に兵庫県家島で合宿形式の「海辺の環境フォーラム」(<http://interpreter.nj.jp/unibe/>)に参加して、たくさんのことを学びました。

そのとき、JF組織内では合意が難しい活動も、NPPO組織にしてJFとの協力関係の中で行動するほうがやりやすい面があることや、また、環境教育的な活動をする組織は、非営利団体NPPOの選択肢の他に、LLP（有限責任事業組合）という組織化の道があることを教えていただきました。

LLPとは、簡単に言えば、出資者は出資額以上の責任を負う必要がなく、出資者同士の合意の上で出資比率に関係なく利益配分ができる「自治ルール」を作り、収益を上げながら、より継続性の高い事業をすすめることができることがわかってきました。

先生になってもらう漁師や海女さんやスタッフに「報酬」を出せる組織でなければ継続性はありません。さらに、公共性と地域性を考慮した地域組織体として妥当であろうと思えました。

支所の合意と見守るJFが力に

松田 「海辺の環境フォーラム」で、これまでの考えてきたことが整理でき、活動と組織化の方向について、応援してくれていた方々と相談をして、JFの役員会にかけることにしました。

結論は、「支所」が独自に行う決定事に反対はしない、ということでした。

矢口 漁業界全体が高齢化、組織の弱体化した将来を考えると、漁師だけではない民宿や観光とタイアップした漁業継続の道を探ろうとしているときです。支所でもできることからやっていけばいい。つまり、「見守ろう」ということであつたと思います。

松田 ありがたい応援でした。支所総会では、反対していたアマガシラさんも、最終的には支所長の説得で賛成してくれ、支所全員の同意を得られました。

来年早々には、組織化にむけて、どうステップアップさせていくか、各地で活動をされている漁業者にも集まっていただき、情報交換の「漁師と友だち」フォーラムを開きたいと思っています。

JF支所が取り組み、全国でも珍しいLLP組織の取り組みを「見守って」応援していただければと願っています。

(聞き手 中島満)